資料１－２

モニタリング調査結果

目　　次

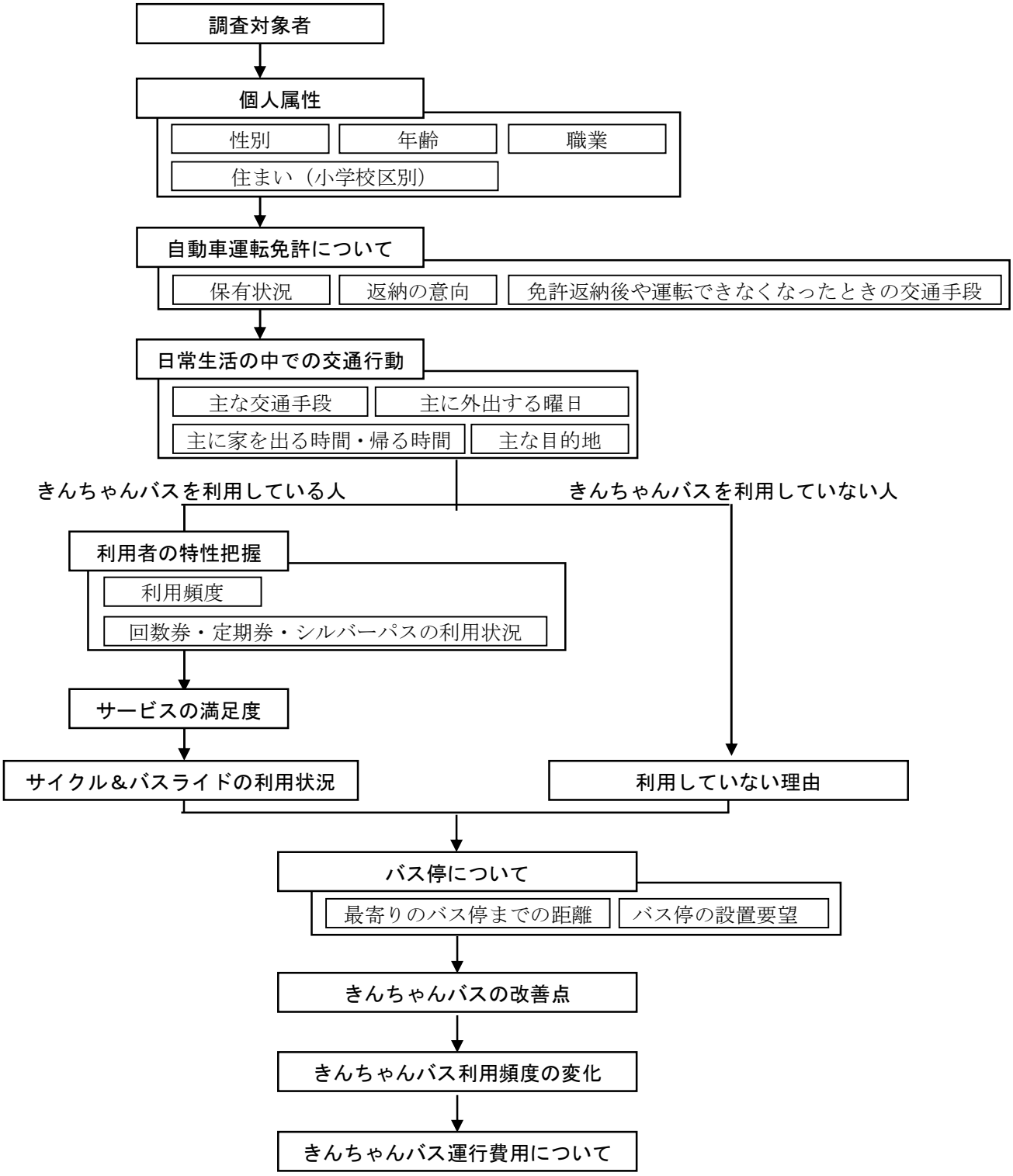
１．住民アンケート 1
　１－１．調査の概要 1
　１－２．設問の流れ 1
　１－３．調査結果 2
　　１－３－１．個人属性 2
　　１－３－２．自動車運転免許について 3
　　１－３－３．日常生活の中での交通行動 5
　　１－３－４．きんちゃんバスについて 10
　　１－３－５．サイクル＆バスライドについて 12
　　１－３－６．きんちゃんバスを利用しない理由 13
　　１－３－７．バス停について 14
　　１－３－８．きんちゃんバス運行についての改善点 16
　　１－３－９．運行費用について 18
　　１－３－１０．自由意見 20
２．企業アンケート 21
　２－１．調査の概要 21
　２－２．設問の流れ 21
　２－３．調査結果 22
　　２－３－１．企業情報 22
　　２－３－２．通勤手段 24
　　２－３－３．通勤者用駐車場 25
　　２－３－４．通勤に関する企業の制度・規定 26
　　２－３－５．環境等に配慮した通勤促進の取組み状況及び今後の実施予定等 27
　　２－３－６．通勤にバスを利用する場合、利便性の高い駅 27
　　２－３－７．臨海部におけるきんちゃんバスの必要性 28
　　２－３－８．きんちゃんバスについての改善点 28
　　２－３－９．きんちゃんバスの利用推奨 29
　　２－３－１０．自由意見 29

１．住民アンケート

１－１．調査の概要

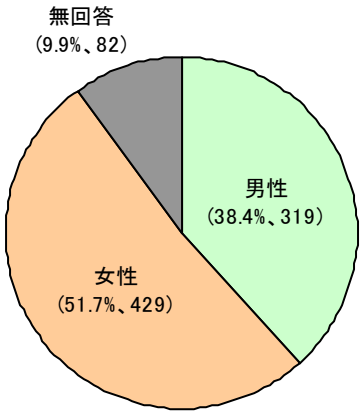
対象	・弥富市内に居住する 15 歳以上の住民 2,000 名※住民基本台帳より無作為抽出 ・その他３団体：区長会（34 名）、福寿会（10 名）、女性の会（13 名）
期間	8/3～8/20
回収数	830 名（回収率 40.4%）

１－２．設問の流れ



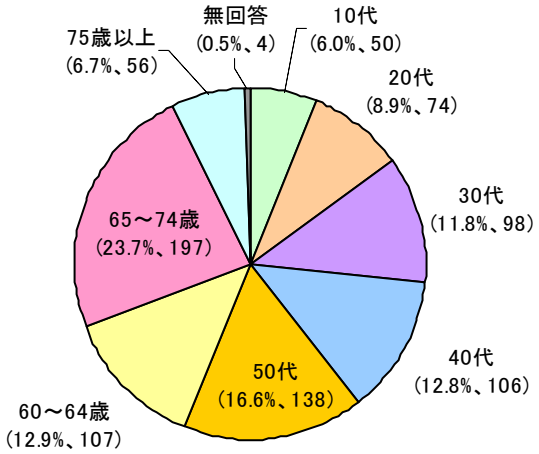
１－３．調査結果

１－３－１．個人属性



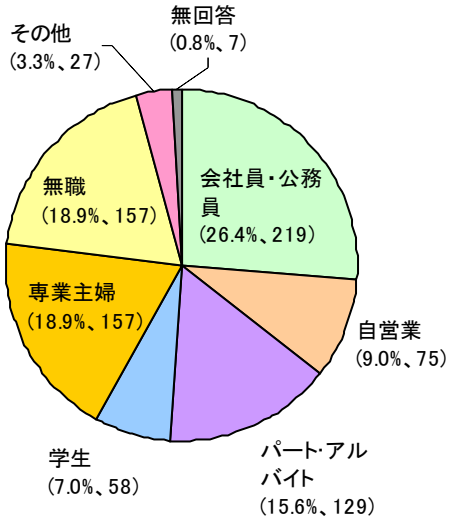
n = 830

性別



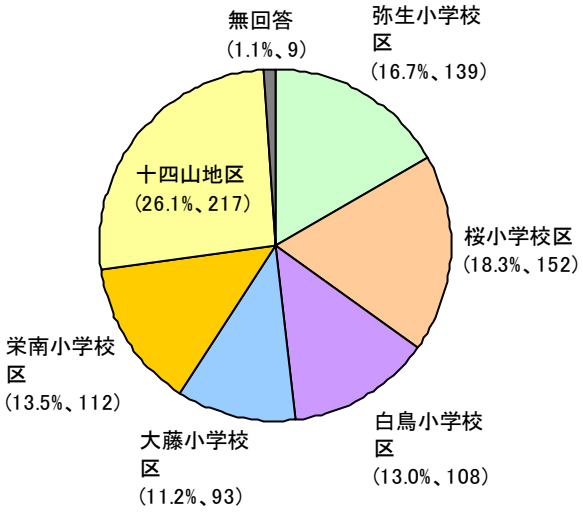
n = 830

年齢



n = 829

職業



n = 830

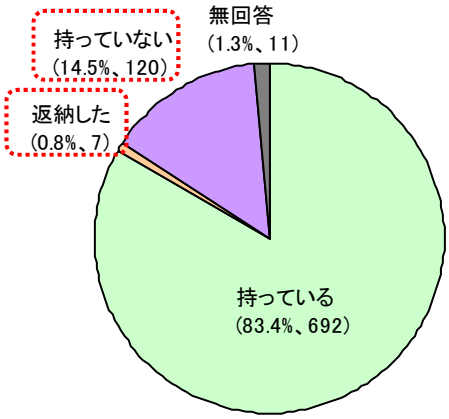
住まい

１－３－２．自動車運転免許について

①運転免許の保有状況

- 運転免許を保有していない人（返納した人を含む）は全体の 15.3%である。
- 地区別では、弥生小学校区や桜小学校区で運転免許を保有していない人（返納した人を含む）が多くなっている。

（地区別集計については資料編１ページ参照）

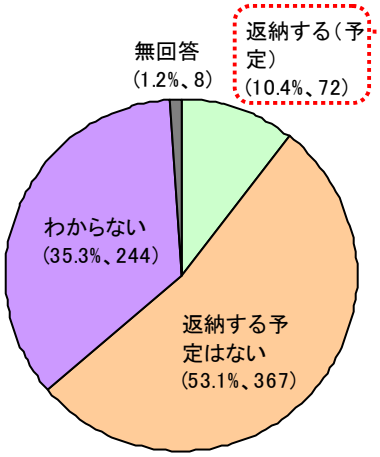


n = 830

②運転免許の返納について

- 運転免許を保有している人のうち、返納する人（予定を含む）は全体の 10.4%である。
- 返納を予定している年齢は 80 歳代が最も多く、次いで 70 歳代が多い。
- 地区別では、白鳥小学校区で返納する（予定）の人が約２割と最も高く、桜小学校区では返納する予定がない人が約６割と最も高い。

（地区別集計については資料編１ページ参照）



【返納する（予定）年齢】

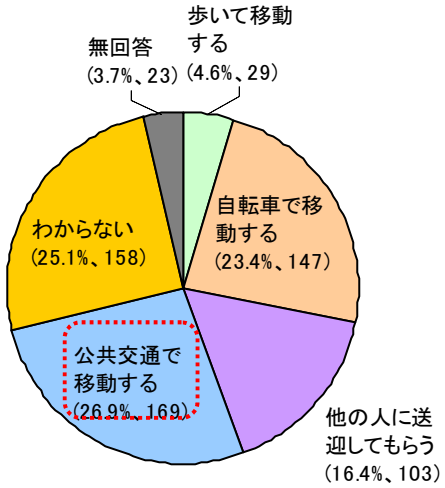
選択肢	票数	割合
1. 60歳代	3	4.2%
2. 70歳代	30	41.7%
3. 80歳代	37	51.4%
4. 90歳以上	2	2.8%
計	72	100.0%

n = 692

③運転免許返納後や運転できなくなったときの交通手段

- 運転ができなくなった場合の代替手段として公共交通での移動を考えている人は全体の 26.9%であり、最も多い。
- 地区別でみると、白鳥小学校区、大藤小学校区、栄南小学校区では約４割の人が「公共交通で移動する」と回答したのに対し、弥生小学校区や桜小学校区などでは約４割の人が「自転車で移動する」と回答している。

（地区別集計については資料編２ページ参照）



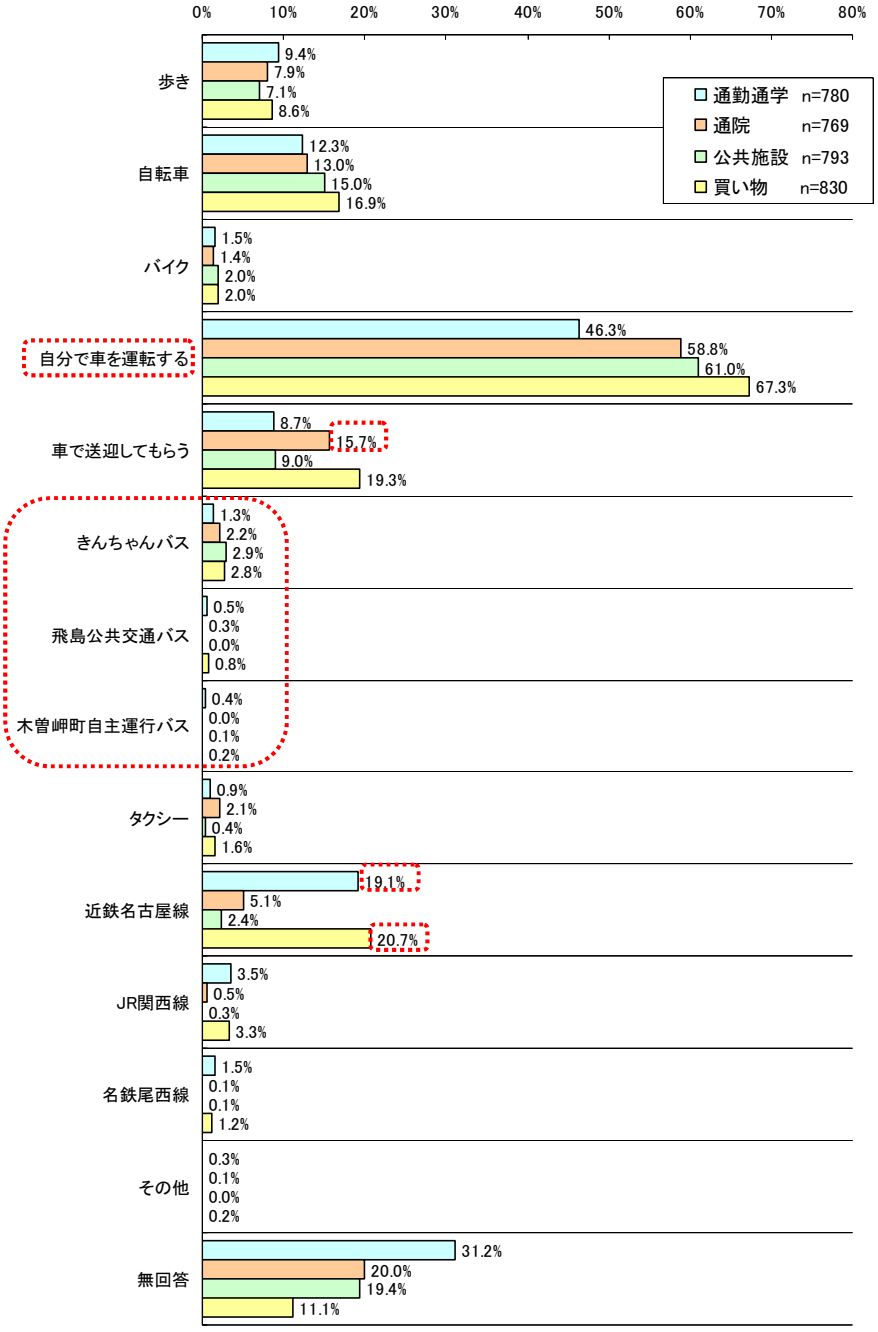
n = 692

１－３－３．日常生活の中での交通行動

①主な交通手段

- 全ての目的において、「自分で車を運転する」が最も多い。
- 「通勤通学」及び「買い物」については、近鉄名古屋線を利用する人が多い。
- 「通院」については「車で送迎してもらう」が「自分で車を運転する」に次いで多い。
- 全ての目的において、「きんちゃんバス」の利用者はごく少数である。さらに、「飛島公共交通バス」「木曽岬町自主運行バス」の利用者はさらに少数である。
- 地区別にみると、弥生小学校区や桜小学校区は、他地区と比較して「歩き」や「自転車」の割合が多くなっている。
- 日常的にきんちゃんバスを利用している人は大藤小学校区（南部ルート）や白鳥小学校区（北部ルート）に多い。
- 十四山地区や大藤小学校区、白鳥小学校区は「自分で車を運転する」人がかなり多い。
- 栄南小学校区は、近鉄名古屋駅を利用した通勤通学の割合が最も多くなっている。

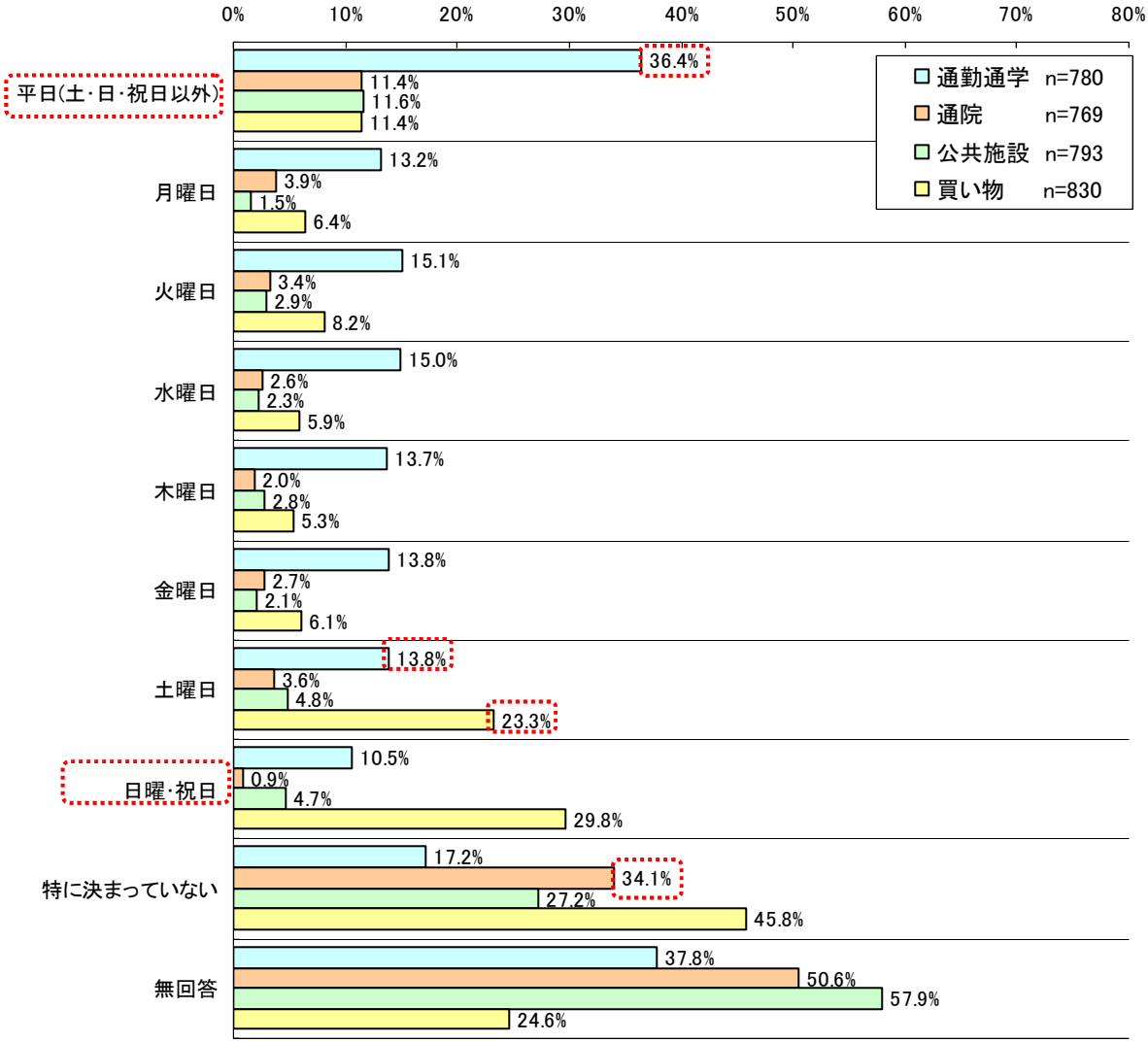
（地区別集計については資料編３～４ページ参照）



②主に外出する曜日

- 「通勤通学」に関しては、平日が最も多く、土・日・祝日は約１割である。
- 「通院」に関しては、「特に決まっていない」が最も多く、次いで平日である。日･祝日はほとんどみられない。
- 「公共施設」に関しては、「特に決まっていない」が最も多く、次いで平日が多い。
- 「買い物」に関しては「特に決まっていない」が約半分を占め、次いで日曜・祝日、土曜が多い。
- 地区別では、どの地区も全体と傾向が似通っている。

（地区別集計については資料編５ページ参照）

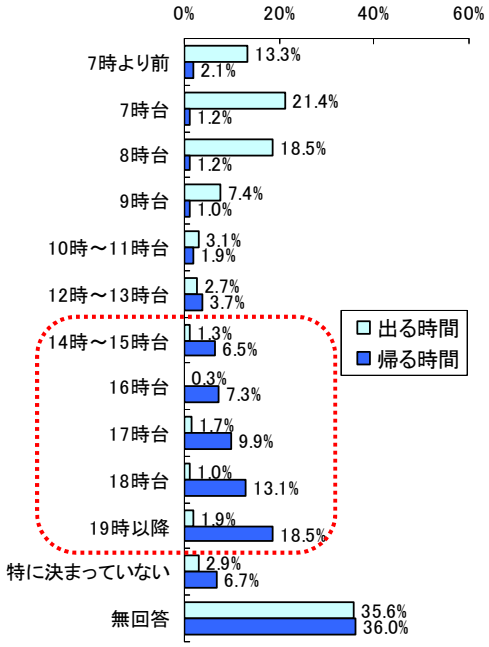


③主に家を出る時間・帰る時間

- 「通勤・通学」に関しては、「家を出る時間」は９時台までが多く、「家に帰る時間」は 14 時以降から次第に増え始めるが、「家を出る時間」に比べてバラつきがある。
- 「通院」に関しては、「家を出る時間」は８時台～11 時台までが多く、「家に帰る時間」は 10 時～13 時までがほとんどを占める。
- 「公共施設」に関しては、「家を出る時間」が 9 時～11 時台まで、「家に帰る時間」が 10 時～13 時までが多い。
- 「買い物」に関しては、「家を出る時間」が 9 時台～11 時台までが多いが、「家に帰る時間」にはバラつきが見られる。また、「特に決まっていない」が約３割を占めている。
- 地区別では、どの地区も傾向が似通っている。

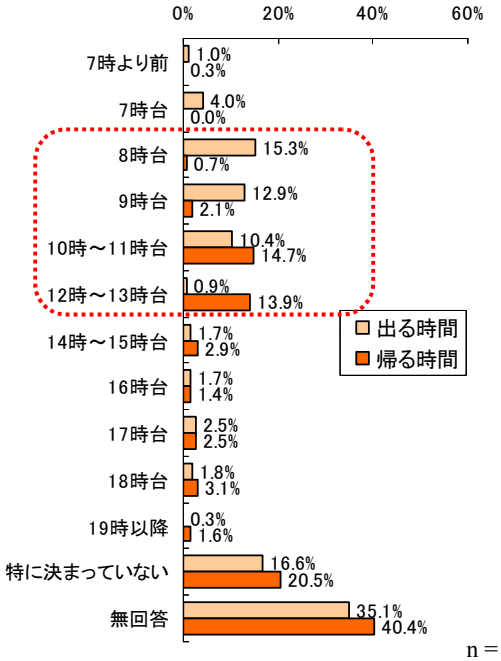
（地区別集計については資料編６～７ページ参照）

【 通勤・通学 】



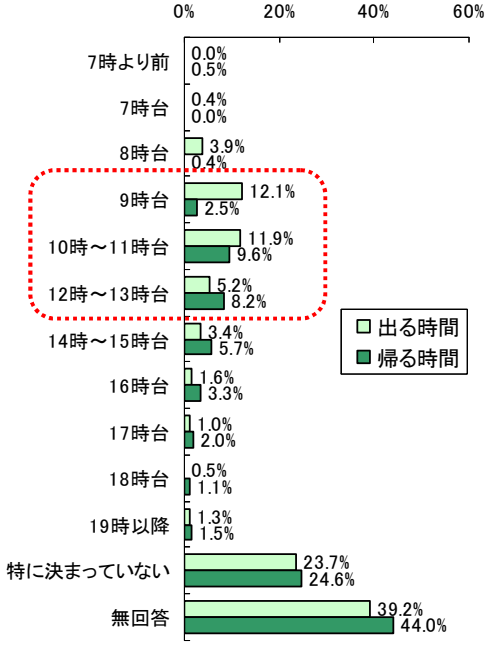
n = 780

【 通 院 】



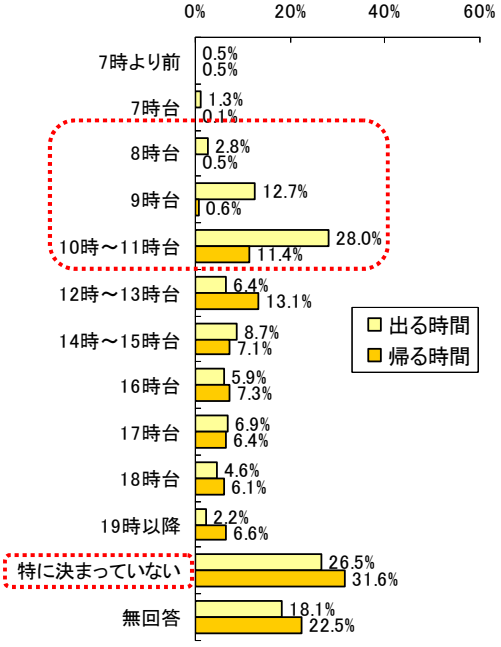
n = 769

【 公共施設 】



n = 793

【 買 い 物 】

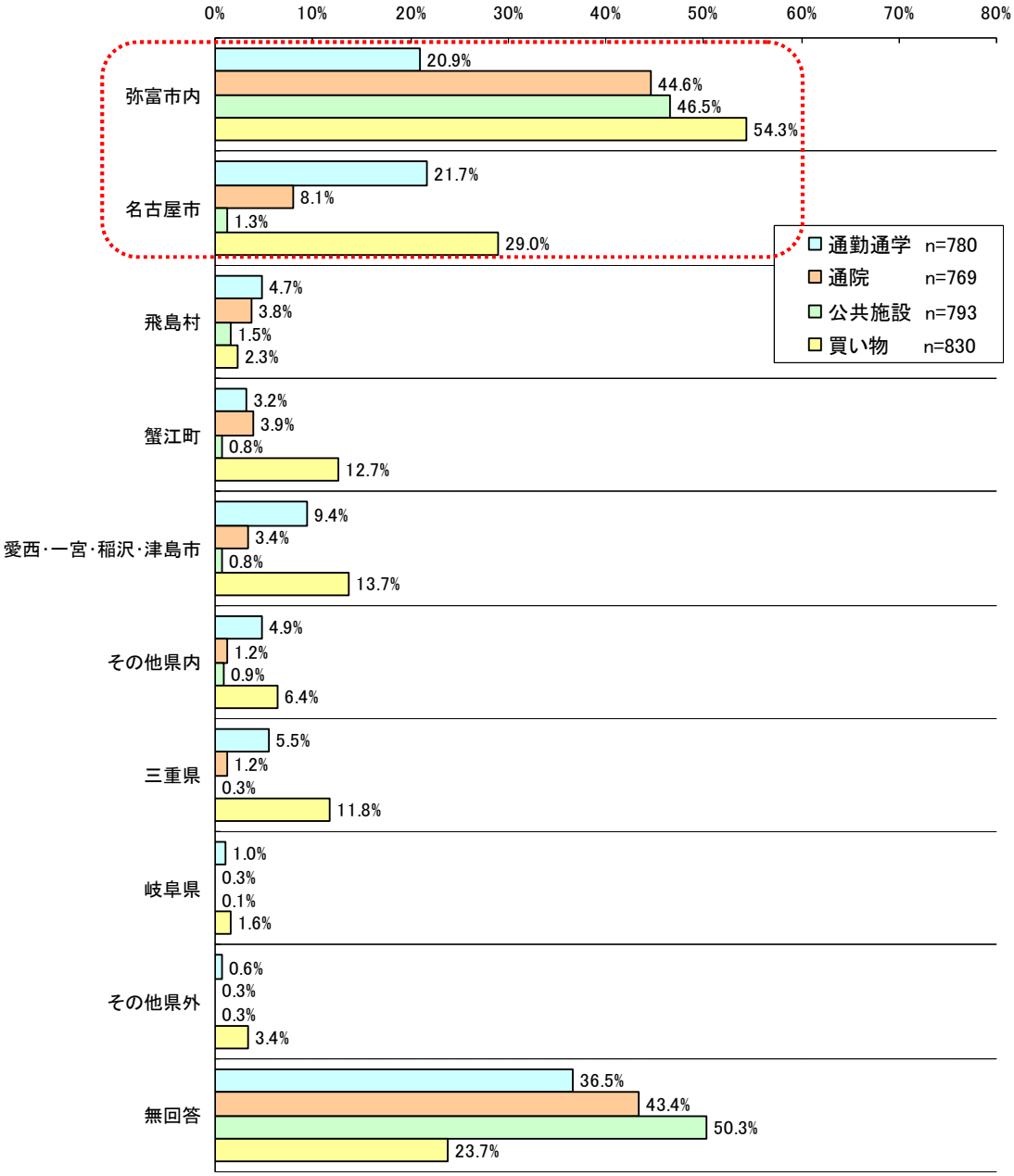


n = 830

④主な目的地

- 「通勤通学」に関しては、「名古屋市」「弥富市内」が多い。
- 「通院」に関しては、「弥富市内」が最も多い。
- 「公共施設」に関しては、「弥富市内」が最も多く、約半分を占める。それ以外はほとんどみられない。
- 地区別でみると、「買い物」に関しては、「弥富市内」が最も多く、次いで「名古屋市」が多い。栄南小学校区や十四山地区は他の地区と比較して飛島村や蟹江町への移動が多い。
- 弥生小学校では、「愛西・一宮・稲沢・津島」方面への移動が多い。

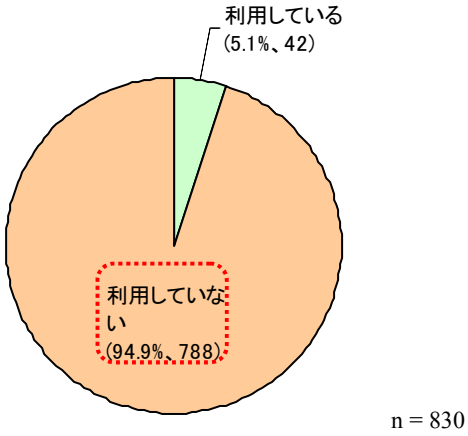
（地区別集計については資料編８～９ページ参照）



⑤日常生活でのきんちゃんバス利用の有無

- 日常生活の移動の際に、きんちゃんバスを利用してるのは全体のわずか５％である。
- 大藤小学校区や栄南小学校区（南部ルート）では、約１割と他の地区と比べて高くなっているが、弥生小学校区（北部ルート）では利用者はみられない。

（地区別集計については資料編 10 ページ参照）

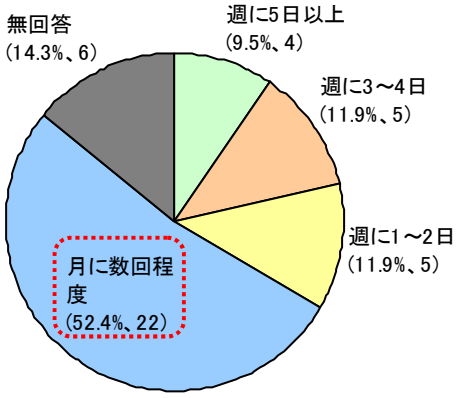


１－３－４．きんちゃんバスについて

（「主に利用する交通手段」で「きんちゃんバス」と回答した人のみ）

①きんちゃんバス利用者の利用頻度

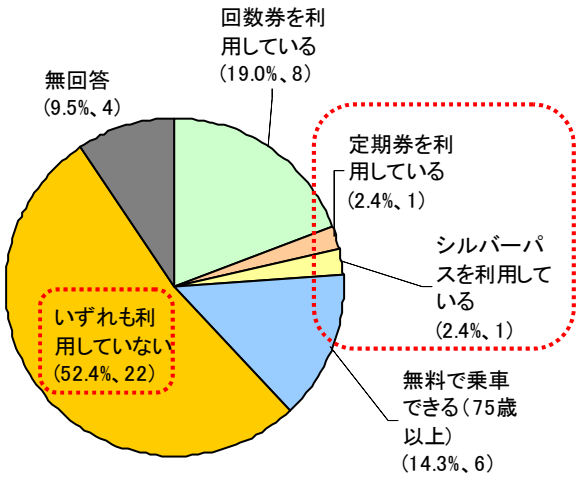
- きんちゃんバスの利用頻度については、月に数回程度が約半分を占めている。



n = 42

②「回数券」「定期券」「シルバーパス」の利用状況

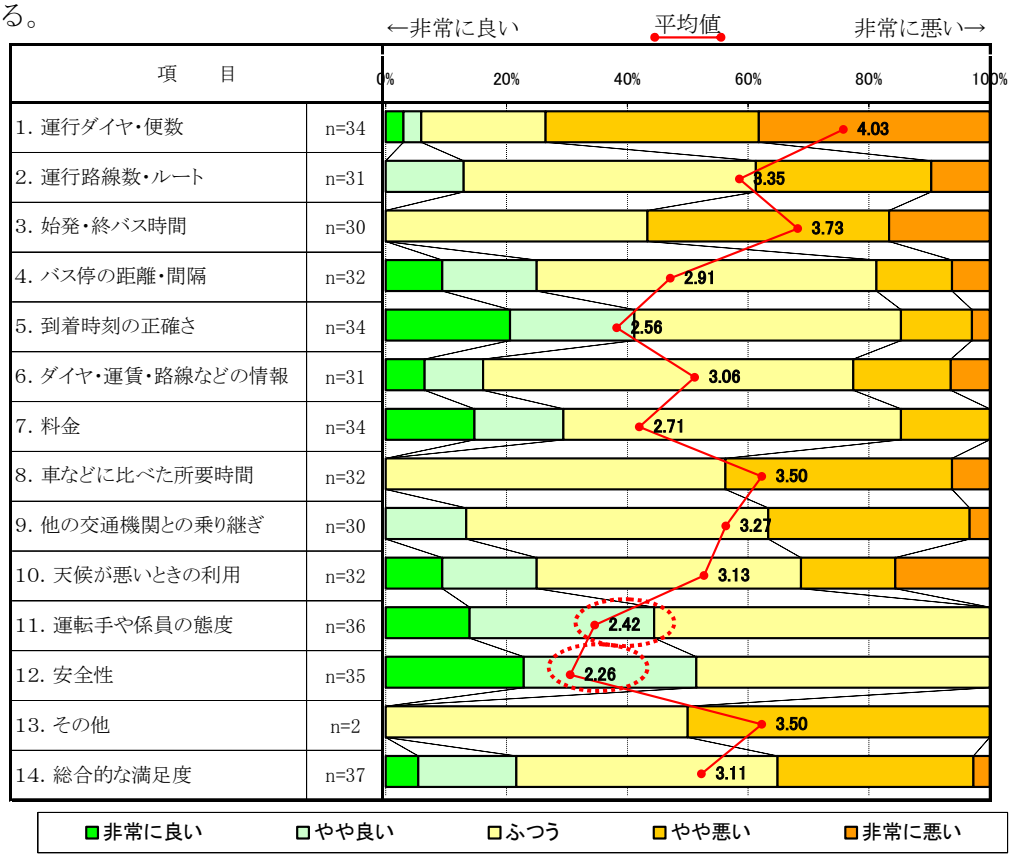
- 「回数券」、「定期券」、「シルバーパス」の利用状況については、「いずれも利用していない」が約半分を占めている。
- 「定期券」または「シルバーパス」の利用はほとんどみられない。



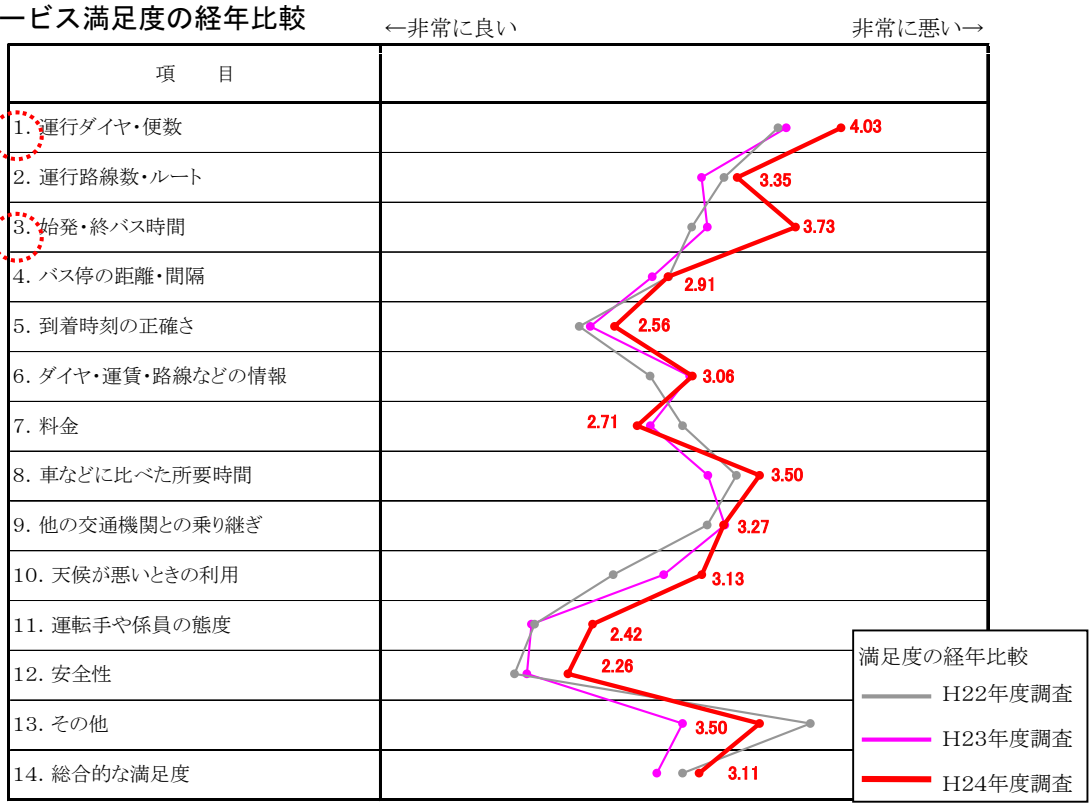
n = 42

③サービスの満足度

- 利用している人の満足度としては、「安全性」、「運転手や係員の態度」、「到着時刻の正確さ」に関しては評価が高い。
- 一方で、「運行ダイヤ・便数」や「始発・終バス時間」については評価が低く、昨年度と比較しても評価が大きく低下している。
- 「料金」、「他の交通機関との乗り継ぎ」を除く全ての項目で昨年度と比較して評価が低下している。



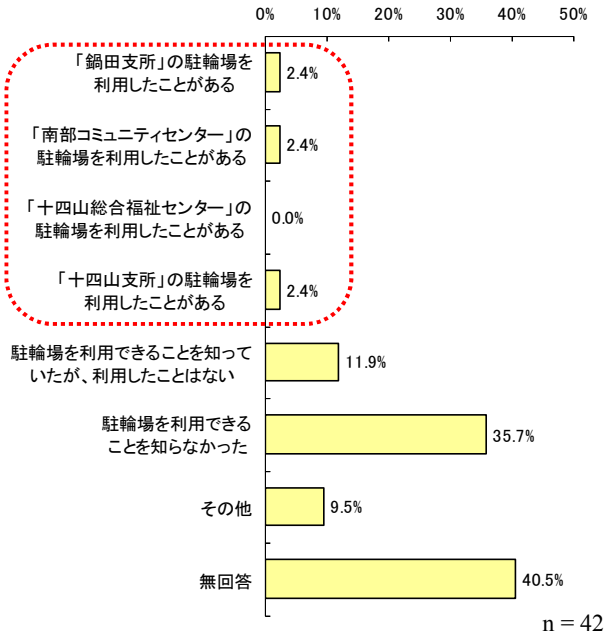
【参考】サービス満足度の経年比較

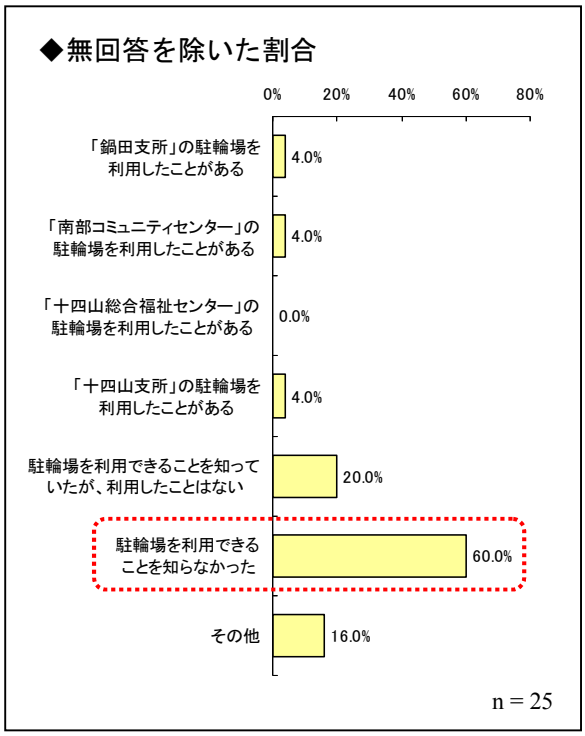


１－３－５．サイクル＆バスライドについて

（「主に利用する交通手段」で「きんちゃんバス」と回答した人のみ）

- サイクル＆バスライドの利用者はきわめて低い。
- 「駐輪場を利用できることを知らなかった」が 35.7%を占め、無回答を除くと６割が該当する。



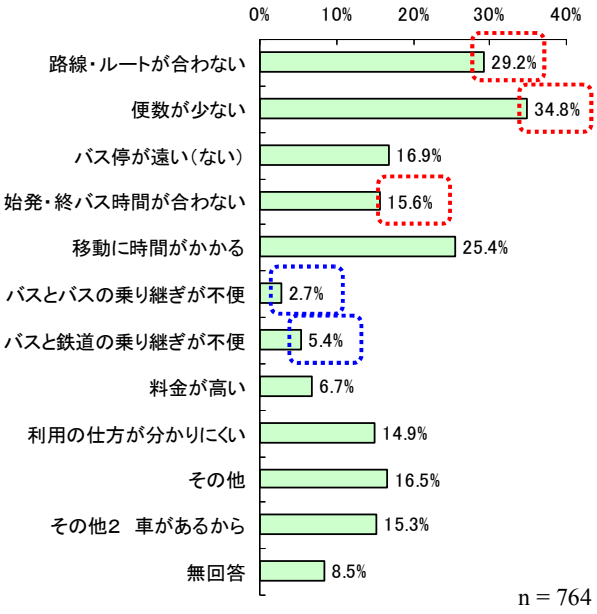


１－３－６．きんちゃんバスを利用しない理由

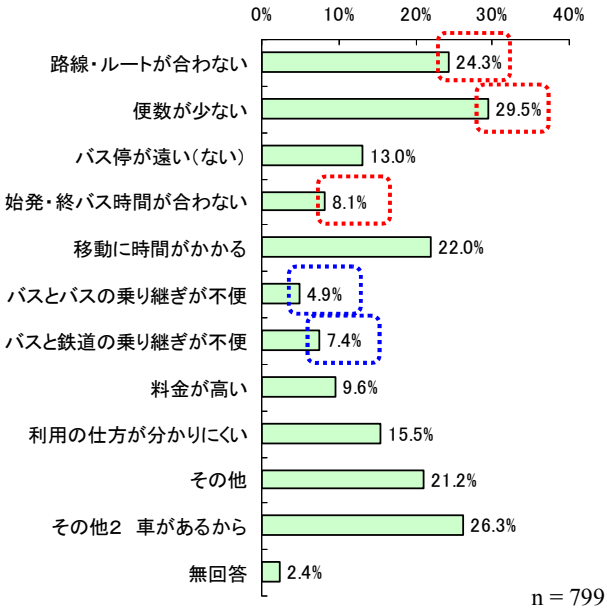
（「主に利用する交通手段」で「きんちゃんバス」と回答しなかった人）

- きんちゃんバスを利用しない理由としては、昨年度同様に「路線・ルートが合わない」「便数が少ない」が多く、昨年度よりも増加している。
- 昨年度と比較して、「始発・終バス時間が合わない」が増加している。
- 一方で、「乗り継ぎが不便」と回答した人は、昨年度と比較して減少している。
- 地区別でみると、大藤小学校区、栄南小学校区で、「便数が少ない」「始発・終バス時間が合わない」と回答する人が多い。
- 栄南小学校区、十四山地区において、「移動に時間がかかる」と回答する人が多い。
- 十四山地区においては、「バス停が遠い（ない）」と回答する人が多い。

（地区別集計については資料編 11 ページ参照）



【参考】昨年度の調査結果

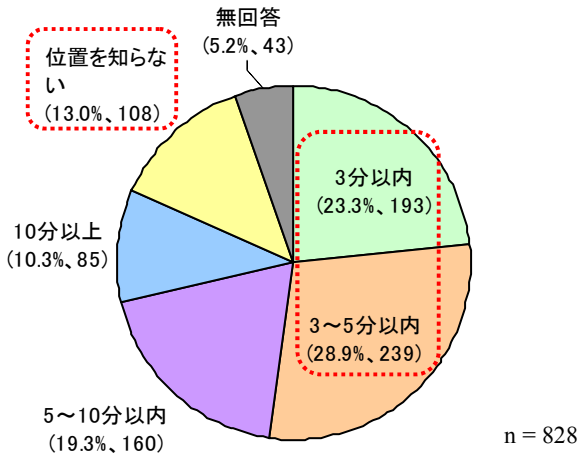


１－３－７．バス停について

①最寄りのバス停までの距離

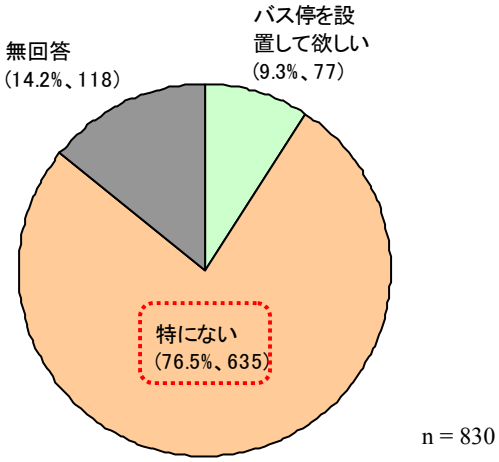
- 回答者の約５割が最寄りのバス停まで５分以内に居住している。
- 回答者の約１割が最寄りのバス停の位置を把握していない。
- 地区別でみると、５分以内と回答した人は約４割であり、他地区と比較してバス停までがやや遠くなっている。
- 「バス停の位置を知らない人」は栄南小学校区では全体の約５％であるのに対して、桜小学校区では約２割を占めている。

（地区別集計については資料編 12 ページ参照）

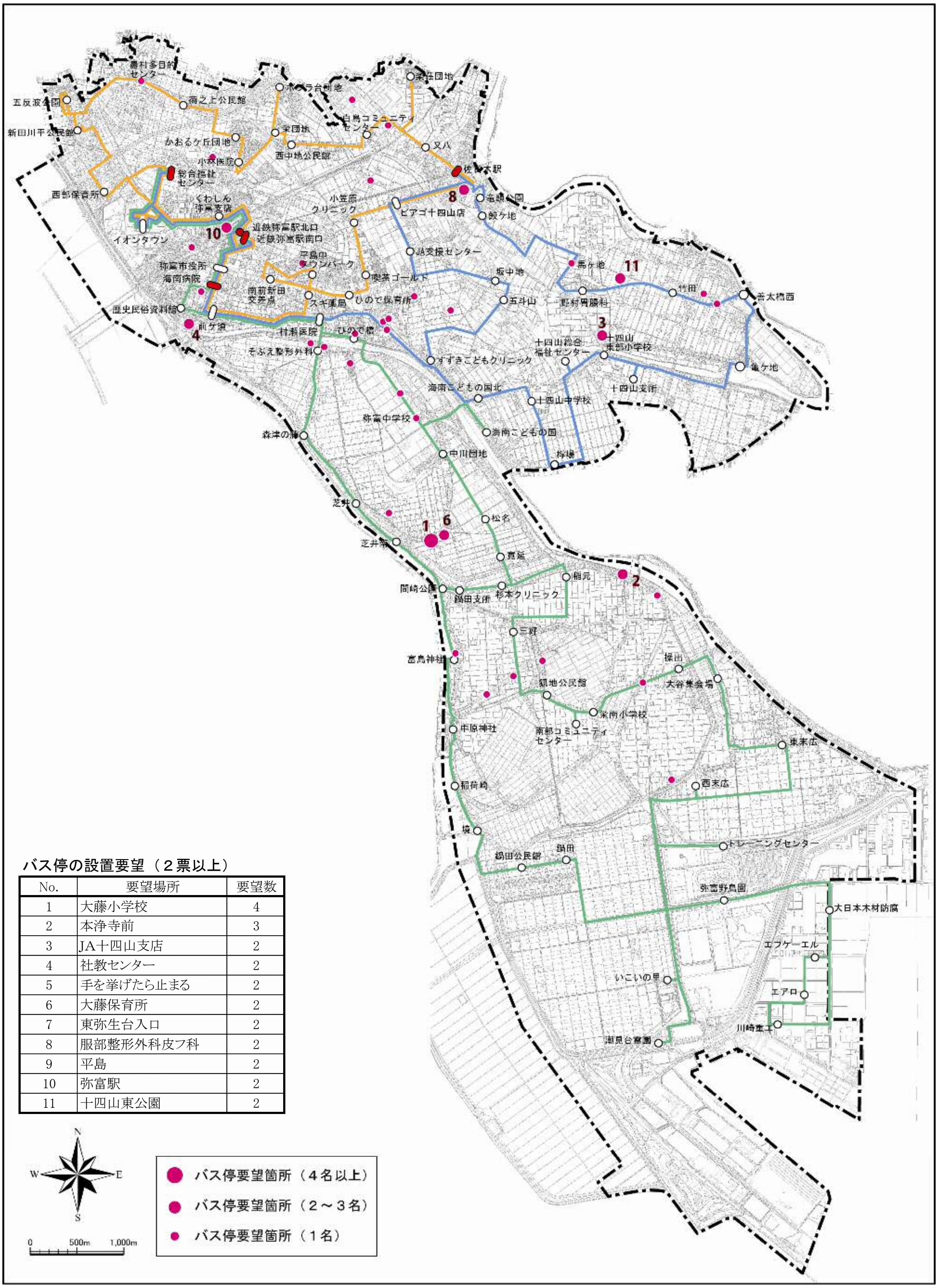


②新たに設置して欲しいバス停

- 新しいバス停の設置要望は「特にない」が約８割と高くなっている。
- 具体的な設置要望箇所としては、「大藤小学校」、「本浄寺前」が多くなっている。



③バス停設置要望箇所



バス停の設置要望（２票以上）

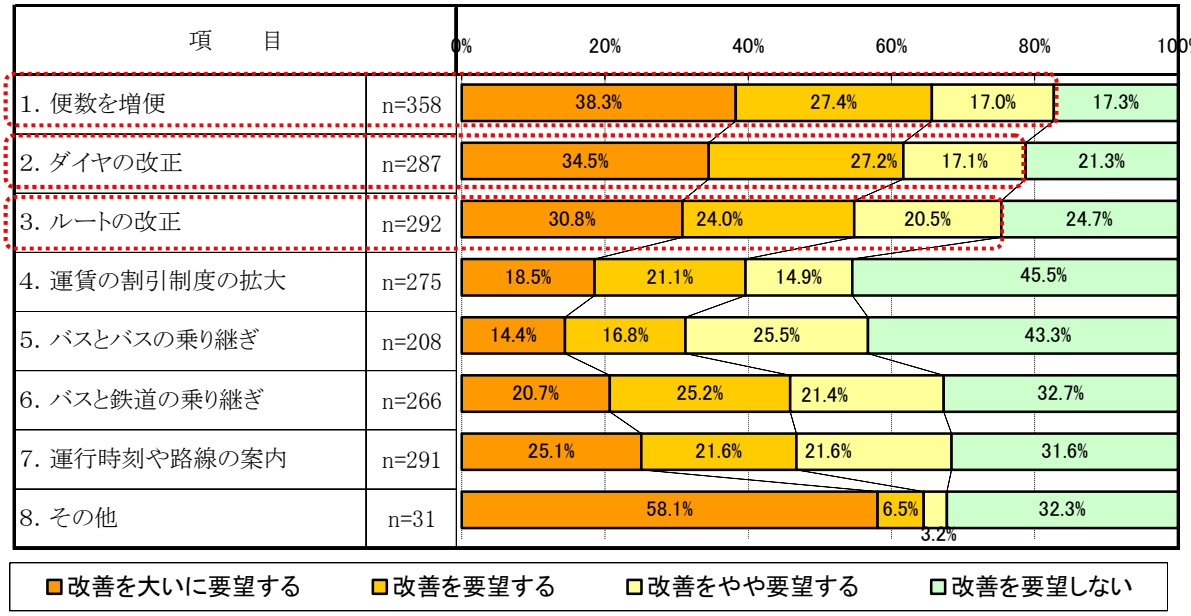
No.	要望場所	要望数
1	大藤小学校	4
2	本浄寺前	3
3	JA十四山支店	2
4	社教センター	2
5	手を挙げたら止まる	2
6	大藤保育所	2
7	東弥生台入口	2
8	服部整形外科皮フ科	2
9	平島	2
10	弥富駅	2
11	十四山東公園	2

１－３－８．きんちゃんバス運行についての改善点

①改善要望

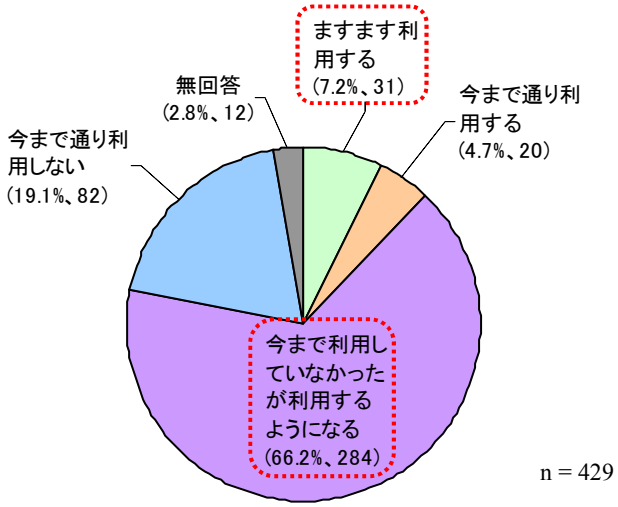
- 改善点については、「便数の増便」「ダイヤの改正」「ルートの改正」に対する要望が高い。
- 特に「ルートの改正」は、昨年度と比較して要望する人が多くなっている。
- 便数を増便」に関しては、栄南小学校区や大藤小学校区（南部ルート）や白鳥小学校区（北部ルート）で特に要望が多くなっている。
- 栄南小学校区や大藤小学校区については、「ダイヤの改正」についても要望が多い。
- 「ルートの改正」に関しては、白鳥小学校区が特に多くなっている。
- 要望が改善された際の利用意向については、大藤小学校区が最も高く、約８割の人が「利用するようになる」と回答しているのに対し、弥生小学校区（南部ルート）では、「今まで通り利用しない」が約４割と多くなっている。

（地区別集計については資料編 13～14 ページ参照）



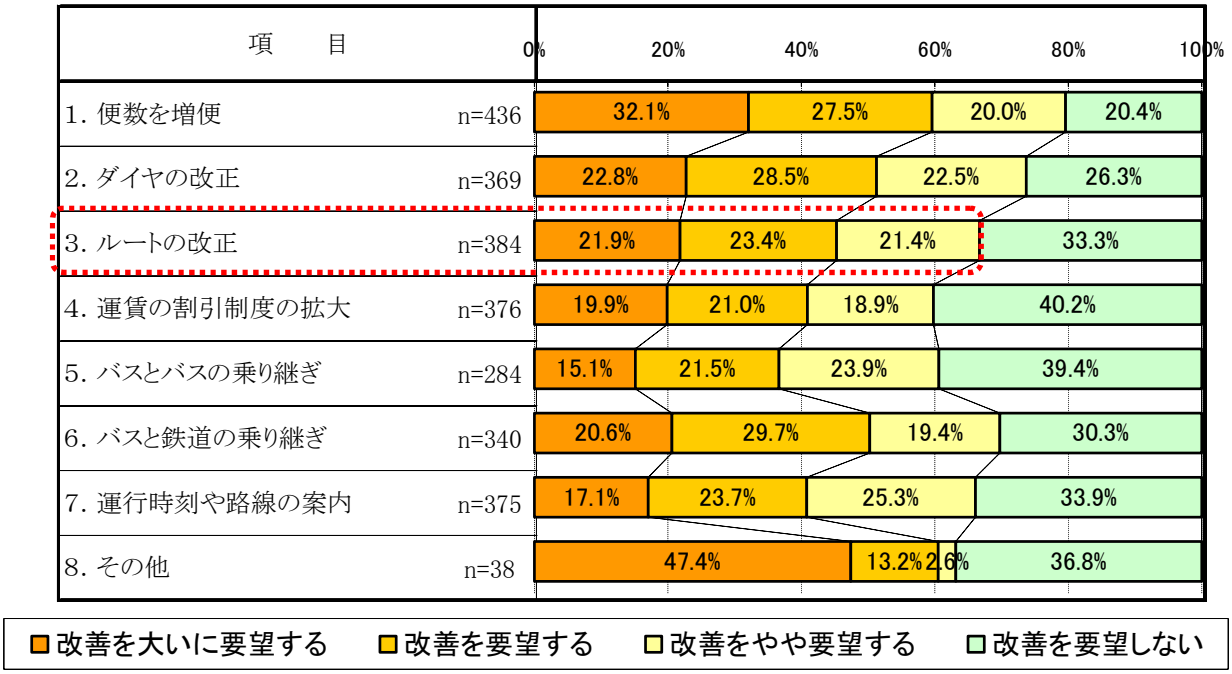
②①の要望が改善された場合の今後の利用意向

- 要望が改善された場合の利用意向としては、全体の約７割が「ますます利用する」または「今まで利用していなかったが利用するようになる」と回答している。

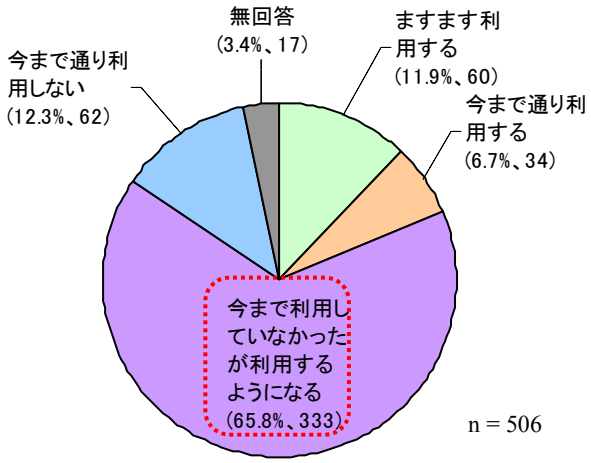


【参考】昨年度の調査結果

①改善要望



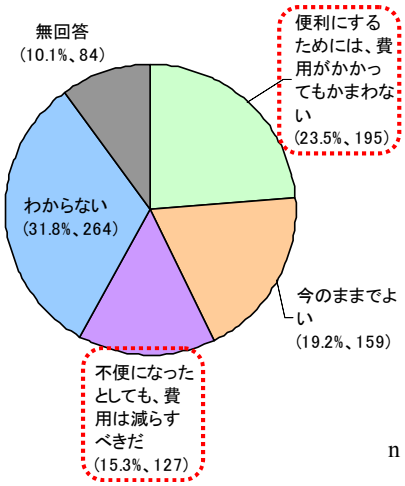
②①の要望が改善された場合の今後の利用意向



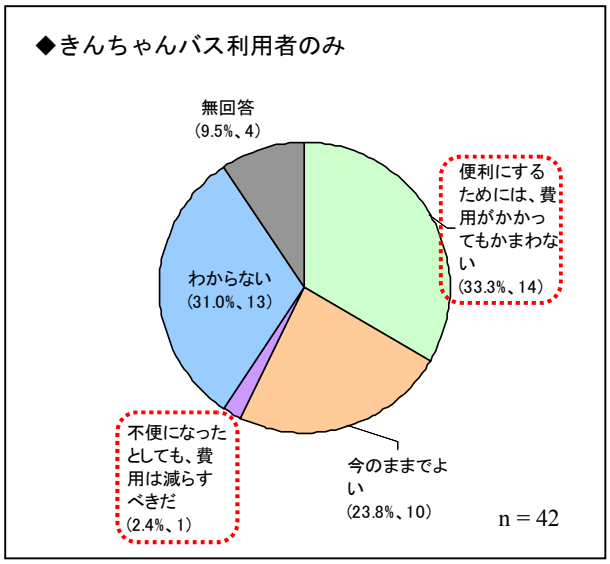
１－３－９．運行費用について

①運行費用に対する意識

- 「便利にするためには、費用がかかってもかまわない」と回答する人が最も高くなっている。
- きんちゃんバスの利用者のみに絞ってみても「便利にするためには、費用がかかってもかまわない」と回答する人が最も高い。
- 一方で、「不便になったとしても費用は減らすべきだ」と回答した人は、ほとんどが普段きんちゃんバスを利用していない。



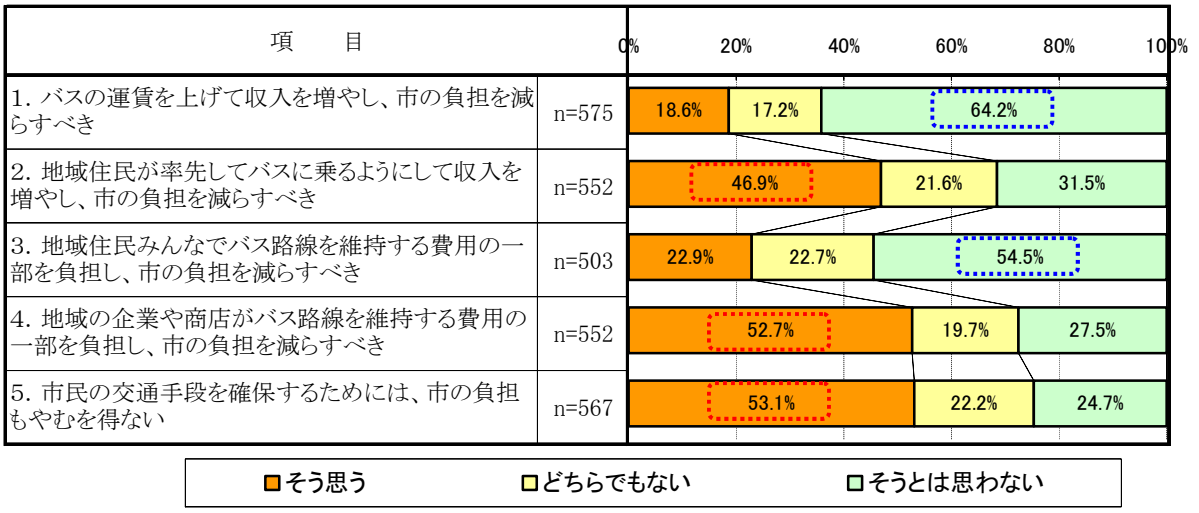
n = 829



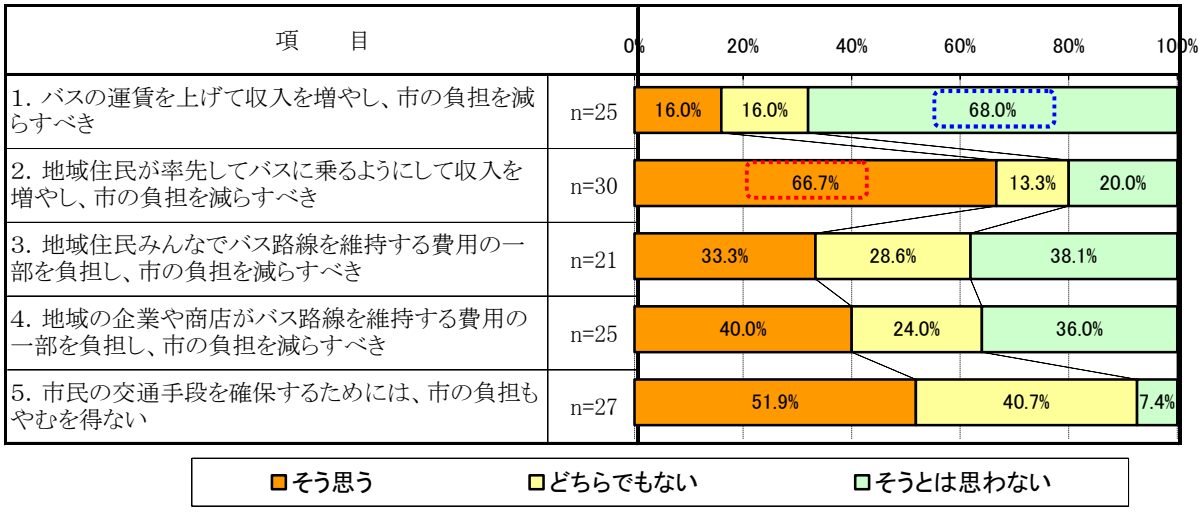
n = 42

②運行費用の負担に対する考え

- 運行費用の負担については、「バスの運賃の値上げ」や「地域住民による費用の一部負担」に関してはそう思わないという回答が高い一方で、「市の負担もやむを得ない」や「企業や商店による費用の一部負担」、「率先してバスに乗るようにする」が高くなっている。
- 運行費用の負担について、バス利用者のみに絞ってみると、「率先してバスに乗るようにする」と回答する人が約７割と高くなっている。
- 「バスの運賃の値上げ」に関しては、全体と比較して「そう思わない」と回答する人が多くなっている。



◆きんちゃんバス利用者のみ



１－３－１０．自由意見

意見の内容		票数
弥富市 きんちゃんバス について	①きんちゃんバスは見直すべき（不要・代替検討）	51
	②現状維持（将来利用する）	40
	③改善の希望（時間・ルート・便数・バス停・運賃・小型化・運転マナー）	185
	④バスの周知度が低い（利用方法・PR・情報提供）	29
	⑤きんちゃんバスに関するその他の意見	19
その他	⑥利用していないのでよくわからない（アンケートについて）	25
	⑦その他	44
計		393

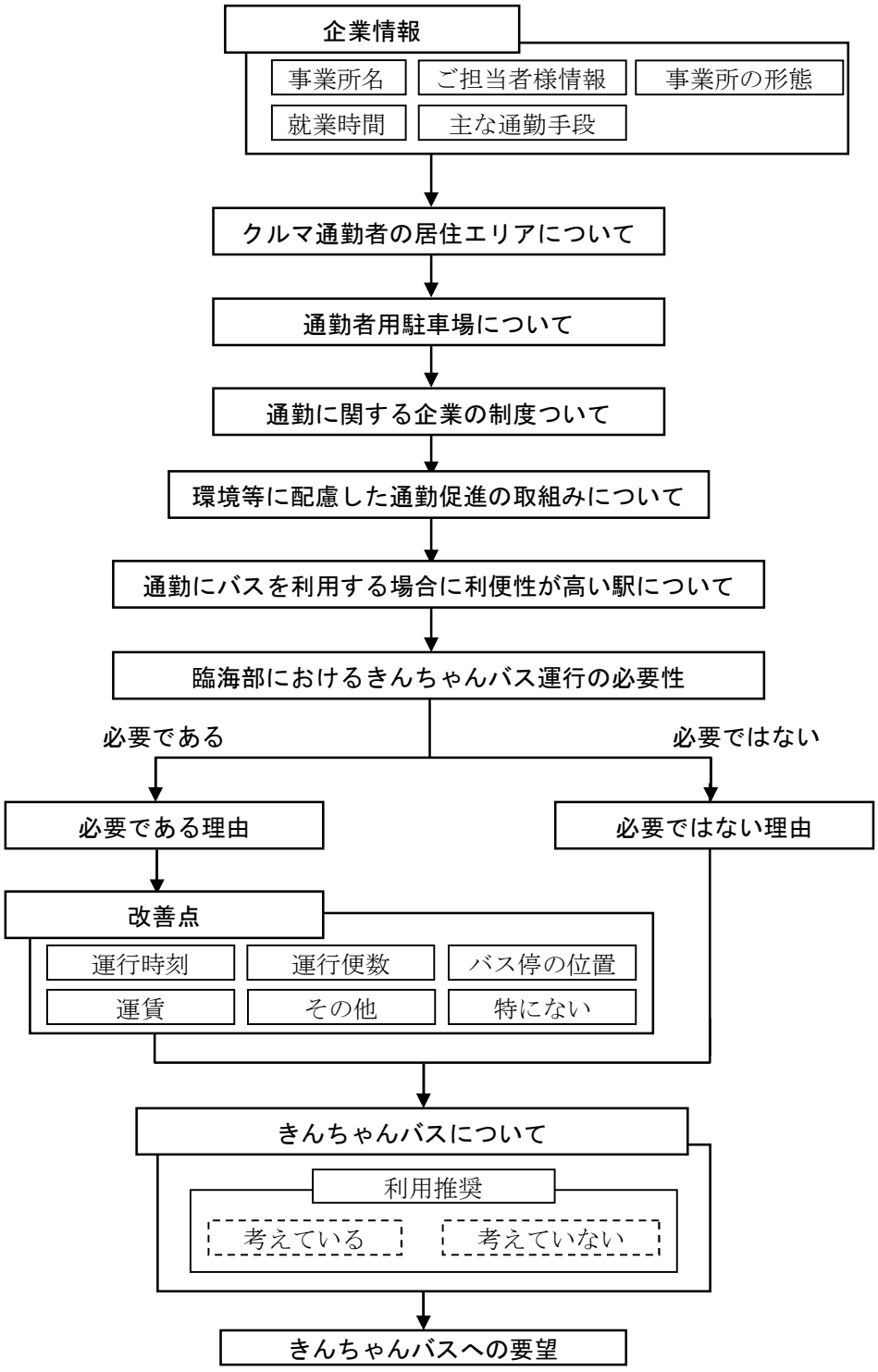
複数回答

２．企業アンケート

２－１．調査の概要

対象	弥富市の臨海部に立地する企業 132 社※事業所統計より抽出
期間	8/3～8/20
回収数	49 社（回収率 37.1%）

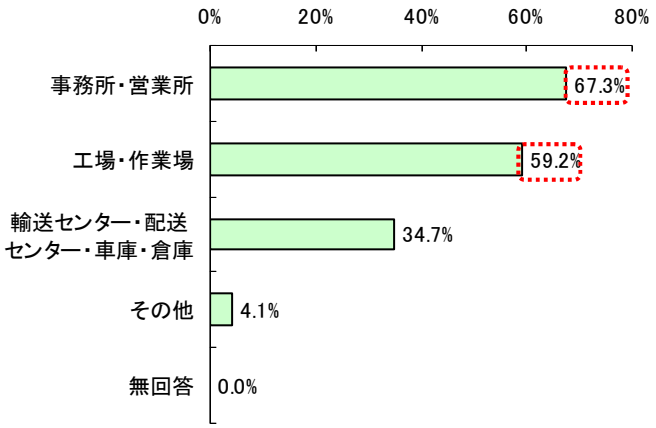
２－２．設問の流れ



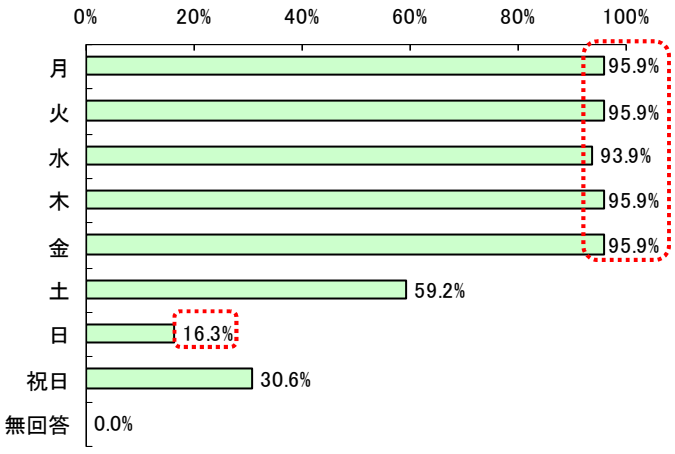
２－３．調査結果

２－３－１．企業情報

- 事業所の形態としては、「事務所・営業所」が約７割と最も多く、次いで工場・作業場が約４割を占めている。
- 事業所の稼働日としては、ほとんどの事業所が平日に稼動しており、土曜の稼動は約６割である。一方で、日曜の稼動は約２割である。

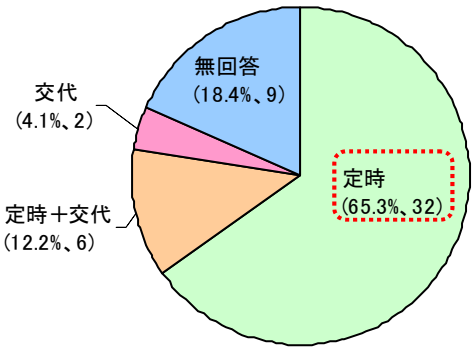


事業所の形態　　n = 49



事業所の稼働日　　n = 49

- 就業形態別の企業数では、定時制のみの企業が最も多く、従業員数でみても定時制従業員が最も多くなっている。
- 定時制従業員の就業時間に着目すると、始業時間は 8 時半～9 時、終業時間は 17 時半～18 時半が最も多い。



n = 49

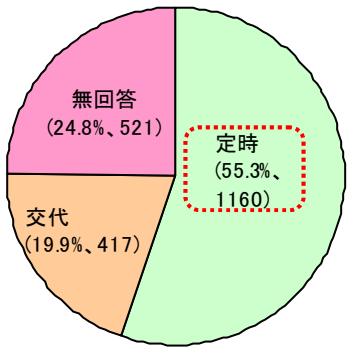
就業形態別の企業数

定時：定時制従業員のみで構成される企業

定時+交代：定時制従業員と交代制従業員で構成される企業

交代：交代制従業員のみで構成される企業

無回答：就業形態が判断できない企業



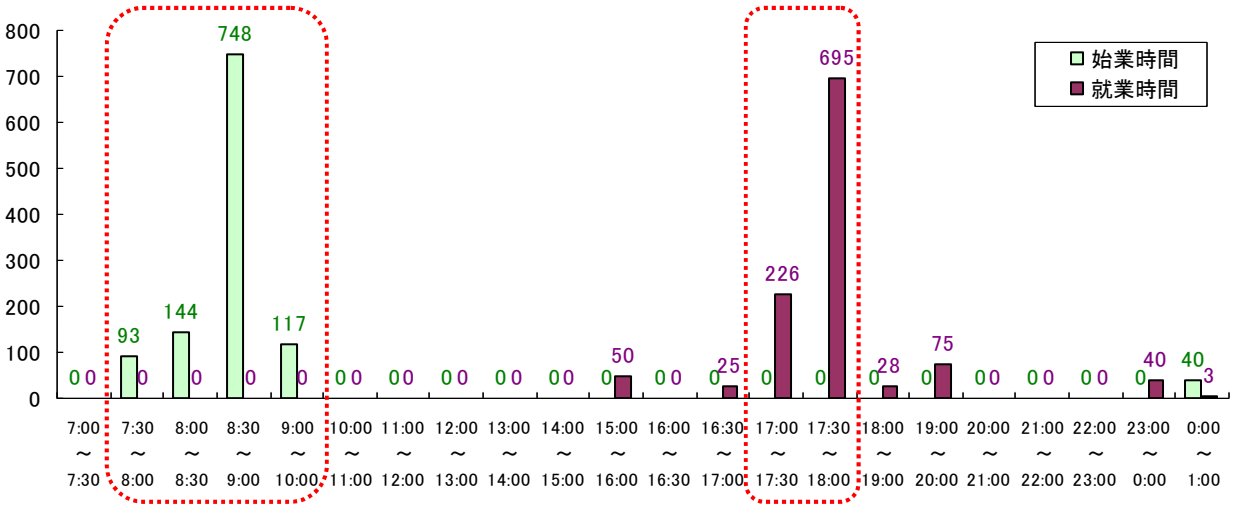
n = 2,098

就業形態別の従業員数

定時：定時制従業員

交代：交代制従業員

無回答：就業形態が判断できない従業員



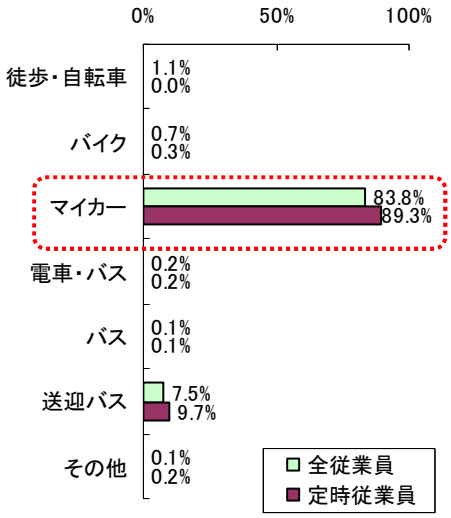
定時制従業員の就業時間

n = 1,160

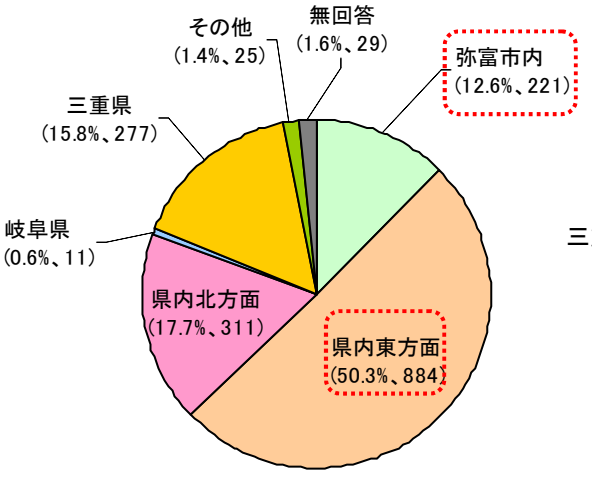
２－３－２．通勤手段

- ８割以上の従業員がマイカーで通勤しており、「電車及びバス」または「バス」での通勤は全従業員で僅か0.3%である。
- マイカー通勤者は、県内東方面からの通勤者が約５割を占め、弥富市内に居住しているのは12.6%のみである。

選択肢	全従業員			定時従業員		
	票数	割合	企業数	票数	割合	企業数
1. 徒歩・自転車	23	1.1%	3	0	0.0%	0
2. バイク	15	0.7%	6	3	0.3%	3
3. マイカー	1,758	83.8%	48	1,036	89.3%	37
4. 電車・バス	4	0.2%	3	2	0.2%	2
5. バス	2	0.1%	2	1	0.1%	1
6. 送迎バス	158	7.5%	6	113	9.7%	4
7. その他	2	0.1%	2	2	0.2%	2
無回答	136	6.5%	1	3	0.3%	1
計	2,098	100.0%		1,160	100.0%	



通勤手段

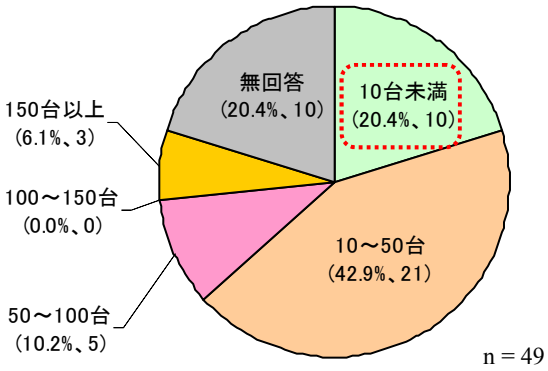


n = 1,758

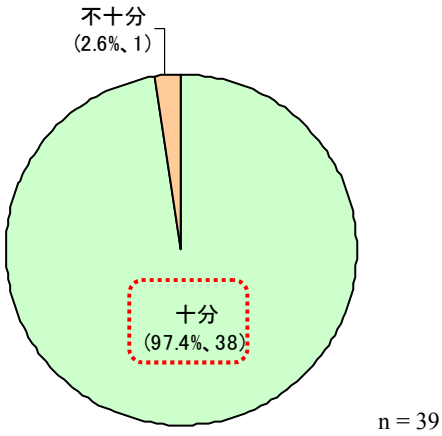
マイカー通勤者の居住エリア

２－３－３．通勤者用駐車場

- 通勤者用駐車場については、「10～50 台」が最も多く、約４割である。
- 通勤者用駐車場の台数について回答した事業所 39 社のうち、38 社において通勤者用駐車場の台数がクルマ通勤者数に対して十分に用意されている。
- 無回答の１社を除く全ての事業所において、通勤者用駐車場が無料で利用できる。
- 通勤者用駐車場の利用に際し、「誰でも自由に利用できる」「事前に登録すれば誰でも利用できる」を合わせた割合は 57.1%である。



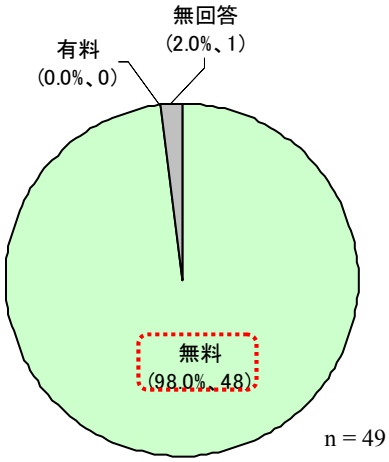
通勤者用駐車場の台数



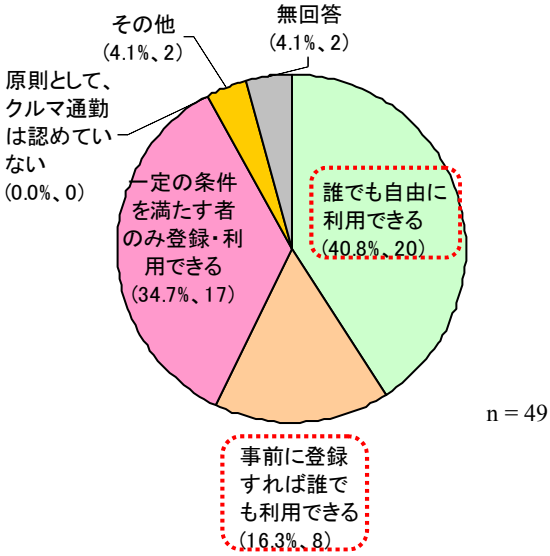
クルマ通勤者数に対する通勤者用駐車場台数

十分：クルマ通勤者数に対し通勤者用駐車場台数が同じかそれ以上

不十分：クルマ通勤者数よりも通勤者用駐車場が少ない



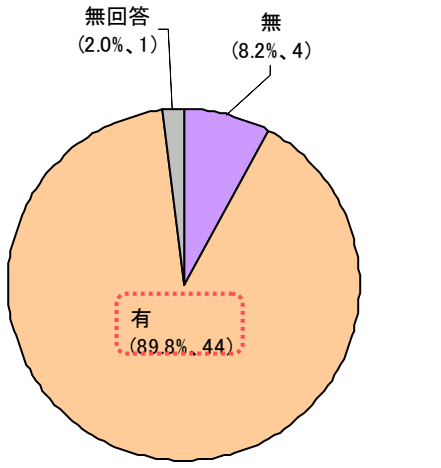
通勤者用駐車場の利用料金



通勤者用駐車場の利用条件

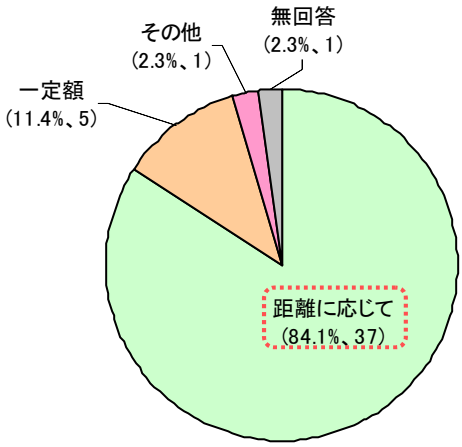
２－３－４．通勤に関する企業の制度・規定

- 約９割の企業がマイカー通勤の手当てが有ると回答している。手当てとしては距離に応じた手当てが最も多い。
- 一方で、徒歩・自転車通勤に対する手当てを支給している事業所は２割のみである。
- マイカー通勤に関する許可基準を設けている事業所は 24.5%であり、約 7 割の事業所では誰でもマイカーで通勤することができる。



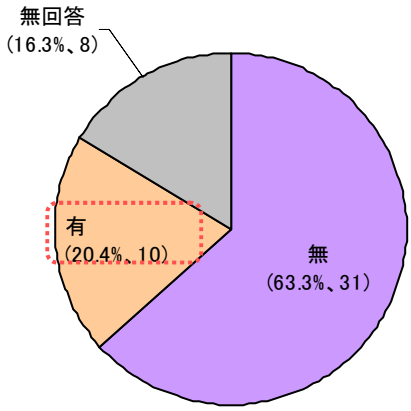
n = 49

マイカー通勤に対する手当ての有無



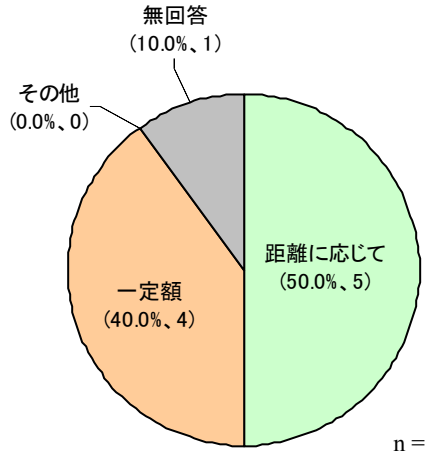
n = 44

マイカー通勤に対する手当て



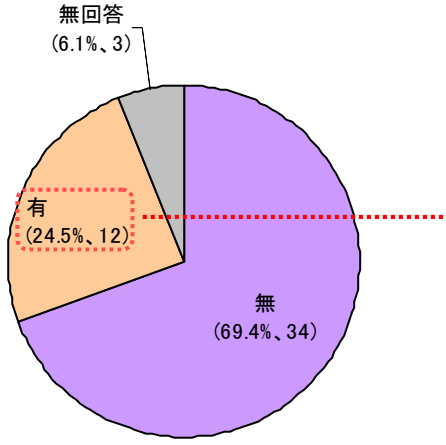
n = 49

徒歩・自転車通勤に対する手当ての有無



n = 10

徒歩・自転車通勤に対する手当て



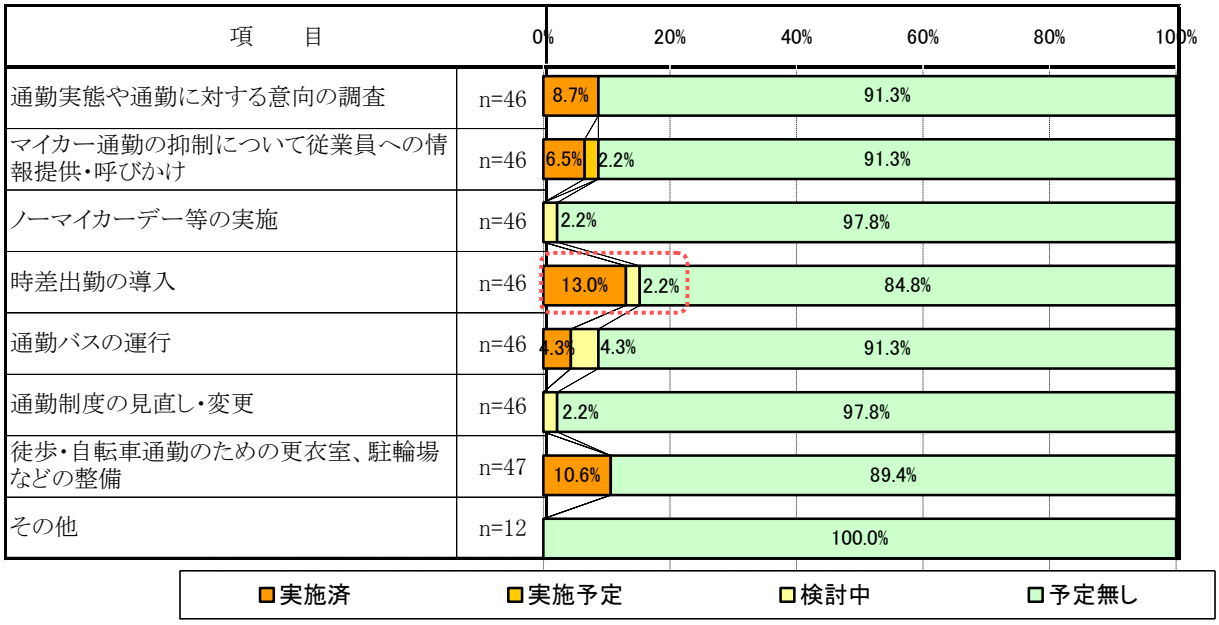
n = 49

マイカー通勤に関する許可基準

任意保険に加入	3 社
自動車保険に加入していること	1 社
自動車保険（対人対物無制限）への加入	1 社
保険（対人、無制限）	1 社
社員であること、任意保険の内容（保障）の基準あり	1 社
免許証有効期限、自賠責保険、任意保険（無制限）	1 社
電車、バスなど公共機関の利用ができない場合	1 社
10 ㎞圏外	1 社
法令講習の受講等	1 社
記入なし	1 社

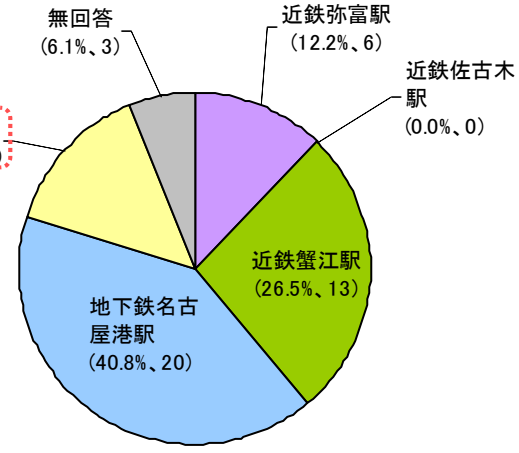
２－３－５．環境等に配慮した通勤促進の取組み状況及び今後の実施予定等

- 環境に配慮した取組みとして、最も取り組んでいる事業所が多いのは「時差出勤の導入」である。しかし、いずれの項目についても約９割の事業所が予定無しと回答している。



２－３－６．通勤にバスを利用する場合、利便性の高い駅

- 最も多かったのは、「地下鉄名古屋港駅」であり、「近鉄弥富駅」または「近鉄蟹江駅」と回答した事業所とほぼ同数である。



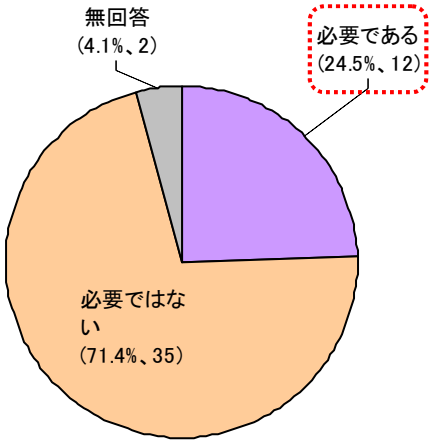
【その他の内訳】

あおなみ線稲永駅	1 社
あおなみ線金城ふ頭	1 社
金山駅	1 社
地下鉄築地口駅	1 社
利用予定なし	2 社
記入なし	1 社

n = 49

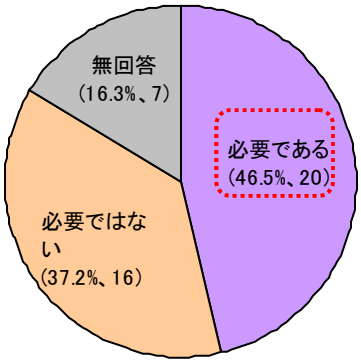
２－３－７．臨海部におけるきんちゃんバスの必要性

- 「必要である」と回答した事業所は全体の４分の１のみである。
- 昨年度の同様の調査結果と比較すると、「必要である」と回答した事業所の割合は約半分に減少している。



n = 49

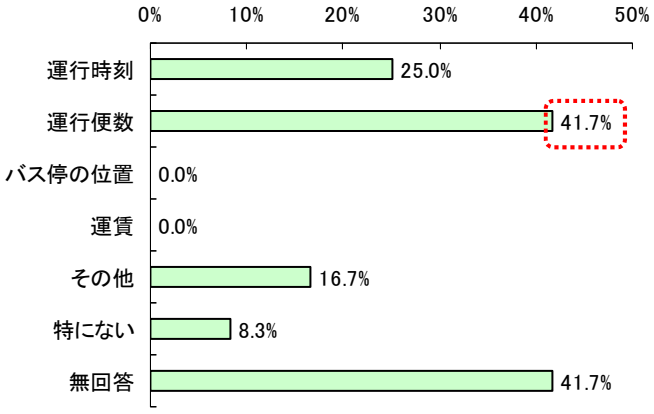
【参考】昨年度調査結果



n =43

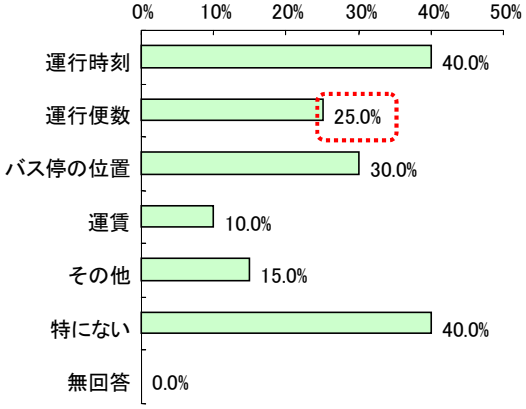
２－３－８．きんちゃんバスについての改善点

- 昨年度の同様の調査結果と比較すると、「運行便数」を改善してほしいと回答する事業所が増加している。



n = 49

【参考】昨年度調査結果

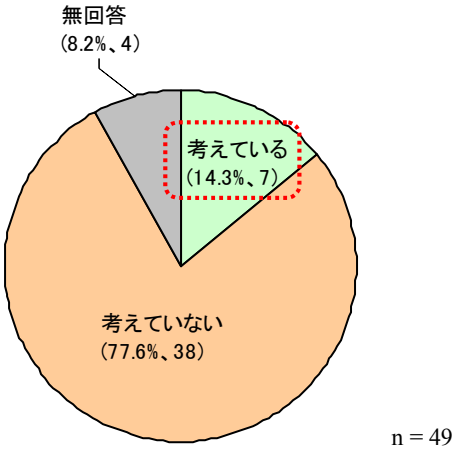


n = 20

※昨年度の調査では、「臨海部にきんちゃんバスが必要である」と回答した企業のみが設問に回答

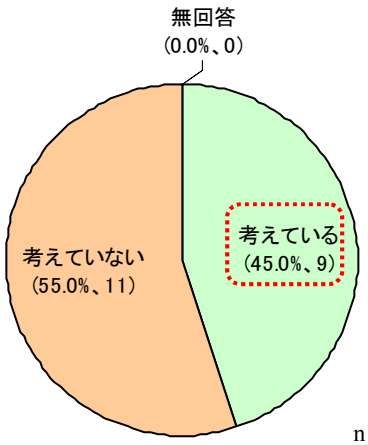
２－３－９．きんちゃんバスの利用推奨

- きんちゃんバスの利用推奨を考えている事業所は約１割であり、昨年度の同様の調査結果と比較しても、大幅に減少している。



n = 49

【参考】昨年度調査結果



n = 20

※昨年度の調査では、「臨海部にきんちゃんバスが必要である」と回答した企業のみが設問に回答

２－３－１０．自由意見

意見の内容		票数
弥富市きんちゃんバスについて	①きんちゃんバスは見直すべき(不要・代替検討)	3
	②現状維持(将来利用する)	2
	③改善の希望(時間・ルート・便数・バス停・運賃・小型化・運転マナー)	6
	④バスの周知度が低い(利用方法・PR・情報提供)	0
	⑤きんちゃんバスに関するその他の意見	4
その他	⑥利用していないのでよくわからない(アンケートについて)	0
	⑦その他	1
計		16

複数回答